

日本の医療・福祉・住宅政策の失敗と希望

ジャーナリズムとアカデミズムの関係性を念頭におきながら

溝田 弘美@特別養護老人ホーム

すばらしい講義を有難うございました。今年 4 月に、医療福祉経営専攻 先進的ケア・ネットワーク開発研究分野（修士課程）に入学いたしました、溝田 弘美@特別養護老人ホーム 六甲の館@神戸です。

以前、ゆきさんの会でお会いして、Facebook で繋がらせて頂いております。

オランダのホスピスや NAGAYA TOWER(鹿児島市) などをご紹介頂きましたが、存じておりませんでしたので、とても勉強になりました。他にも、地域包括ケアシステムの時系列での出来事など、参考になります。

講義のなかで、一番印象に残りましたのは、日本の公的部門の貧しさについてです。

日本の公務員数は国際比較ベースでみると恐ろしく少ないとは知りませんでした。よく、海外諸国と比較して、日本の国会議員はむやみに多いという議論を耳にしますが、公務員の数が少ないというのは問題だと思います。

また、1960 年代から 80 年代にかけて多くの国々で公務員数は増加しているにも関わらず、日本の公務員数は抑え込まれてきたというのは不思議なお話です。政策分野別社会支出の国際比較では、日本の支出はかなり少なく、少子化対策も含めて、日本の小さな社会保障や公教育支出の小さいのは悲しいことです。

最近、私共の特別養護老人ホームに就職予定だった看護師さんが保育所の申請に外れて、子供を預けることができないということがありました。

かつて、「保育園落ちた日本死ね!!!」と書き込んだ人がいました。

子供を預ける保育所が不足していることは、人手不足の福祉の業界では致命的です。

そして、少子化対策や教育支出を増やしていかなければ、日本の将来に希望を持てなくなるのではないかと思います。